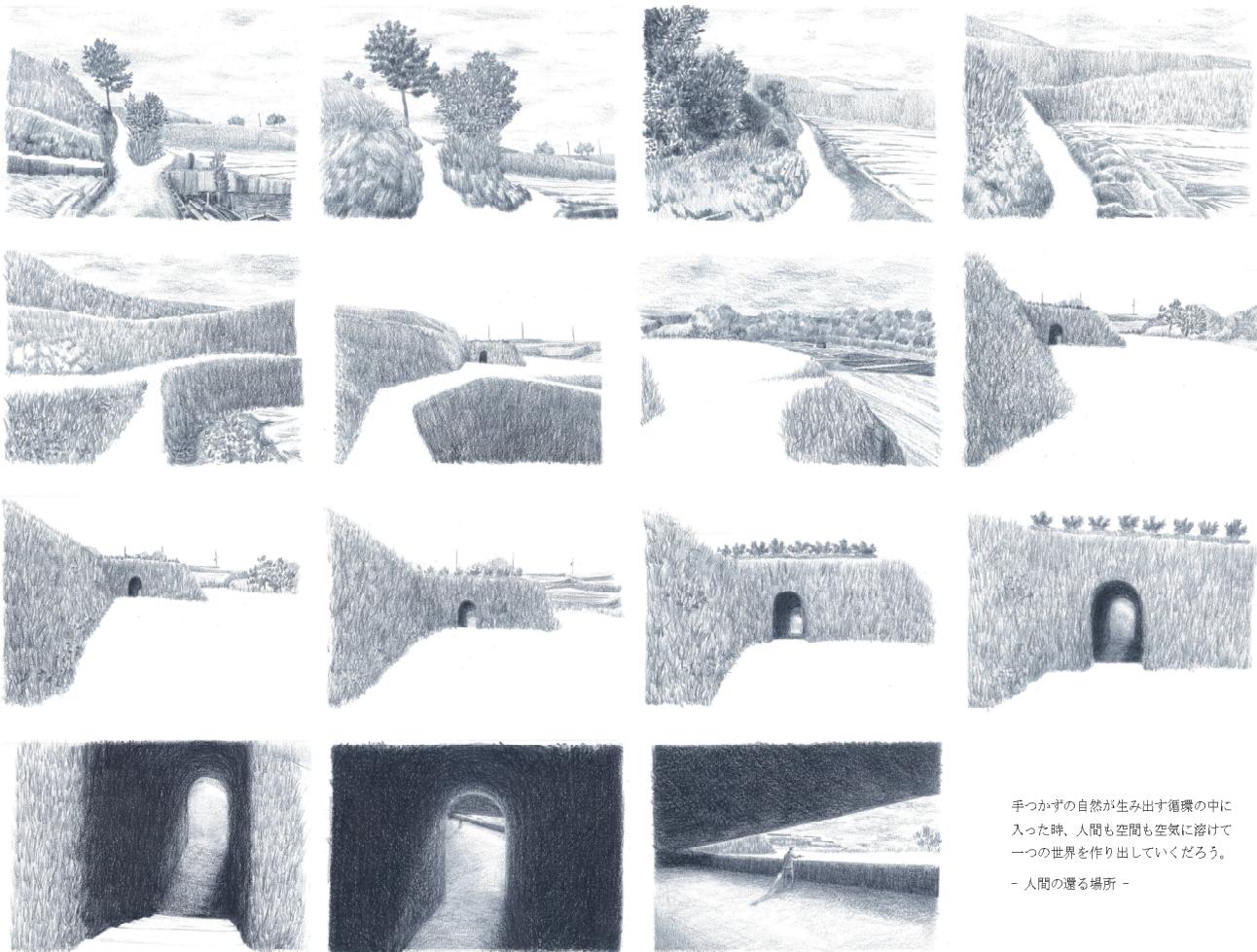


(様式-2)

人間の還る場所

関東学院大学 建築・環境学科
牧迫 俊希



手つかずの自然が生み出す循環の中に
入った時、人間も空間も空気に溶けて
一つの世界を作り出していくだろう。

- 人間の還る場所 -

人間は進化していく過程でいつの間にか自然の存在を自分たちとは違う、別の存在として扱ってきた。だが自然と人間は別のものではない、どちらも自由で優しく美しい、近い存在の同じ“現象”ではないのだろうか。

自然と人間と空間、それらが一体となってひとつの世界を作り出すような建築を考えてみる。

人間の独りよがりな愉しみではなく、手つかずの自然が生み出す旋律の中にそっと入り込んでそれらを受けとめて混じわっていく。その循環の中に入った時、人間も空間も空気に溶けて一つの世界を作り出していくだろう。

「山」という自然の作用によってできた地形自体を一つの建築として捉えてその場所を静かに味わい、刻々と移り変わるその場所を何度も経験すること、それだけで人間も少しずつ自然と同じ現象に還つてゆけるのではないだろうか。